

(4) 特定種

特定種の選定状況及び確認状況を表 5-1-13 及び図 5-1-8 に示す。なお、特定種の選定にあたっては以下の資料を参照した。

①改訂日本の絶滅のおそれのある野生動物—レッドデータブック—環境省

・甲殻類：環境省(2006)

②徳島県の絶滅のおそれのある野生動物 2001

—徳島県レッドデータブック (2001)

③和田恵次 他 (1996) WWF Japan Science Report Vol3 December1996

(特集：日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状)

今回の調査では、環境省編レッドデータブックや徳島県版レッドデータブック、WWF ジャパンサイエンスレポート vol. 3 に掲載された特定種が合計で 23 種確認された。

確認された特定種の内、シオマネキ、ハクセンシオマネキ、ヘナタリガイ、フトヘナタリガイ、ヒロクチカノコガイ等の種は広域分布調査において広範囲で確認されており、本調査区域を特徴付けている代表的な種である。

その他の種においては、ウモレマメガニが比較的多く、航路浚渫調査において確認されている。

一方、確認数の少なかった種としてはウネナシトマヤ、フタハピンノ等があげられる。

表 5-1-13 特定種の選定状況および確認状況

No.	分類群	種名	選定状況			確認状況	
			①	②	③	確認個体数	確認地点数
1	貝類	ヒロチカノガイ		絶滅危惧Ⅱ類	絶滅寸前種	84	10
2		マルウスラタマキヒガイ			危険種	7	2
3		ウミコマツホ			危険種	2	2
4		ワカウツホ			絶滅寸前種	6	1
5		ササナミツホ			希少種	5	2
6		ヘナリガイ		絶滅危惧Ⅱ類	危険種	519	5
7		フトヘナリガイ		準絶滅危惧	危険種	776	7
8		ウネシトマヤガイ			危険種	1	1
9		ハナクモリガイ			危険種	30	10
10		ソトナリガイ			危険種	8	4
11	カニ類	フタバビンノ			希少種	1	1
12		ウモレマメガニ			現状不明	255	10
13		アリアケトギ			希少種	3	3
14		ソオマネ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類	危険種	26	11
15		ハクセンソオマネ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	危険種	66	11
16		ハマガニ		絶滅危惧Ⅱ類		2	2
17		ヒメアシハラガニ		絶滅危惧Ⅱ類		15	6
18		ケフサイガニ		絶滅危惧Ⅱ類		1	1
19		モクスガニ		絶滅危惧Ⅱ類		1	1
20		ユビアカベシケイガニ		絶滅危惧Ⅱ類		18	8
21		クシケガニ		絶滅危惧Ⅱ類	希少種	32	9
22		フタバカクガニ		絶滅危惧Ⅱ類		5	3
23		ベシケイガニ		絶滅危惧Ⅱ類		2	2
合計	-	23 種	2 種	13 種	16 種	1,866 個体	-

- ① 「改訂日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—・甲殻類」環境省（2006年）
 準絶滅危惧 = 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する要素を有するもの
- ② 「徳島県の絶滅のおそれのある野生生物—徳島県版レッドデータブック—」徳島県（2001年）
 絶滅危惧Ⅰ類 = 徳島県において、絶滅の危機に瀕している種。
 絶滅危惧Ⅱ類 = 徳島県において、絶滅の危機が増大している種。
 準絶滅危惧 = 徳島県において、現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
 留意 = 現時点では絶滅の危険度は小さいが、生息条件の変化によっては、上位のランクに移行する可能性があるもの。絶滅の危険度は高くないが、生息に特定の環境条件が必要なもの。徳島県固有種、分布局限種など
- ③ 「WWF Japan Science Report Vol13(日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状)」
 WWF Japan (1996年)
 絶滅寸前 = 人為の影響の如何に問わず、個体数が異常に減少し、放置すればやがて絶滅すると推定される種。
 危険 = 絶滅に向けて進行しているとみなされる種、今すぐ絶滅という危機に瀕するということはないが、現状では確実に絶滅の方向へ向かっていると判断されるもの。
 希少 = 特に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種。
 状況不明 = 最近の生息の状況が乏しい種。

注 1) 確認個体数は定量換算前の捕獲数を合計した値である。